

筑後北中学校だより (第2号)

R2 (2020) 年 6 月 1 日 (文責) 校長 松尾 泰弘

【学校教育目標】

人間尊重の基盤に立ち、進んで学問に励み、心を磨き、
体を鍛える生徒を育成する。

【本年度重点目標】

自らの考えをもち、伝えることができる生徒の育成

学校再開

3ヶ月程続いた臨時休業が終わり、先週学校が再開されました。久々の学校生活で、新しい生活様式も含め、慣れるには少し時間がかかるかもしれません。決して無理をせず、少しずつ自分の生活のリズムをつくっていきましょう。

北中生がんばれ！！

学校生活が再開して、なかなか調子が上がらなかったり、思い悩むことがあったりしても、決して一人ではありません。そんな時は、友だち、お家の方や先生たちなど、身近な人に相談してください。皆さんを支え、応援してくれる人が周りにはたくさんいます。

先日、北中の生徒の皆さんへと花が贈られました。贈り主は匿名で、どなたかはわかりませんが、「北中のみんながんばれ」というメッセージが添えてありました。北中生を応援していただいていることへの感謝の気持ちでいっぱいです。



1日そして1時間の授業を大切に

臨時休業により、学校での友だちと活動する時間が奪われ、それによるいろんな経験ができませんでした。これからは、1日の生活を大切にしながら、友だちと一緒に時間を過ごして下さい。

また、学校では、限られた条件の中でいかにして学習効果を高め、力を伸ばすことができるか、授業での工夫をしていきます。皆さんもこれまで以上に、1時間の授業を大切にしてください。

今をしっかり考える

新聞などのニュースを見て、情報を知ったり、考えたりすることが大切です。

ここで、西日本新聞 3月30日版の「こどもタイムズ」に掲載された筑後北中の生徒の作文を紹介します。

感染者の差別が起きないように

成清 樺斗

最近、ニュースで毎日「新型コロナウイルス」というワードを耳にする。学校の先生がかかると休校に、子どもがかかると保護者会が行われたりするそう。1度かかってしまうと周囲からは冷たい目で見られるとも聞いた。また感染者がでるとニュースや新聞などで大きく取り上げられる。その様子を見てぼくは、「おかしいな」と感じるようになった。なぜかという、インフルエンザと同じような感染症なのに、1度それにかかると周りから差別を受けているような気がするからだ。それは人権問題にもかかわるのではないかな。つまり、メディアで大きく取り上げ、人々の間で恐怖と不安をうむ。それをまた、メディアが取り上げるといふ負のスパイラルが、日本をとりまいていっているのではないかな。感染しても温かい目で見てあげてほしいと思う。

成清樺斗さん(2年)の他に、大曲結菜さん(2年)と緒方誠悟さん(2年)の作文も掲載されていました。昇降口に掲示していますので、是非読んで下さい。

表現を工夫し詩を作る

昨年度 11 号の学校だよりに掲載しましたが、緒方楓莉さん（2 年）と緒方誠悟さん（2 年）が有明新報 2020 年有明新年文芸ジュニアの部の詩の部門で入賞しました。

今回は、その入賞した作品を紹介します。

<p>「おはよう」「おはよう」 先生が笑っている 友達も笑っている 鳥たちはみんな集まってくる ここには笑顔があふれている</p>	<p>とある学校での出来事 緒方 誠悟 朝、起きたよ。朝ごはん食べたよ。 自転車乗ったよ。学校行くよ。 学校着いたよ。教室行くよ。 教室に行ったらみんなおどってたよ。 みんな服装で、おどってたよ。 みんな校庭に行ったよ。外に行ったよ。 大きい大きい穴、あったよ。 見下ろしたら、中でみんな儀式してたよ。 急に「こら、おまん。なにしてるんだ」 って言われたよ。 でも、まわりに誰もいないよ。 だんだんまわりがぼやけてきたよ。 思い出したよ。 ぼく、やっちゃったよ。いねむり。 先生がにらんでいるよ。こわいよ。 よだれが出てたよ。はずかしいよ。 おこられたよ。まだねむいよ。 これがぼくのとある学校での出来事。</p>
<p>笑顔があふれている 緒方 楓莉 びゅーんと風をきる 自転車をごく私は鳥になる 真っ青な空をどんどんかけぬける 自転車たちが鳥になる いろんな色の鳥になる 「さあみんなで真っ青な空をかけぬけよう」 私はまたびゅーんと風をきる 坂道を下っていく 風が私を包みこむ</p>	

楓莉さんは擬人法を使い、自転車で風を切って走り、「おはよう」と笑顔であいさつして登校する生徒を鳥に例え、「鳥たちはみんな集まってくる」と表現しています。「鳥になった気持ちをどう表現したら伝わるか」を工夫したそうです。

誠悟さんは授業中に居眠りして夢を見た様子を詩にしています。実際に居眠りしたことはないが「おもしろい詩を作りたいかった」ので、「行ったよ」や「あったよ」「思い出したよ」などの表現を使ったそうです。

西日本新聞社 4 月 29 日版の「こどもタイムズ」に掲載された筑後北中の生徒の詩を紹介します。テーマは「風」です。

<p>風は贈り物 二年 池上 康二朗 風は無限 風がなくなることはない 風は自分にさしこんでくる光 希望として自分に吹き込んでくる 風は色々なものを運んでくる 風は未来からの贈り物</p>	<p>風は生きています 二年 城戸 悠我 ・風はどうやってできているの？ ・きつと空気でできている ・風は寒かったり暑かったりする ・風は、涼しい ・風は、気持ちいい ・風は、こちょいい ・風は長生きする</p>	<p>風から伝わってくる気持ち 二年 紫原 琉生 外で木がゆれている 強風だ 空では雲が動いている 競争だ 走るとき顔に当たる風 冷たいな 夏の季節の風 いやされるな 冬の季節の風 部屋にもどろう たくさんの気持ちがある中で 選ばれる気持ちはごくわずか</p>
--	--	--

詩は言葉のひとつひとつに何かしらの意味が込められていて、それをひとつずつ理解しながら読み進めると作者の思いが伝わってきます。短いながらも奥が深く、余韻にひたることもできます。皆さんも素敵な詩を作ってみませんか。

今後の主な学校関係行事予定

- ① 入学式（祝う会）（1年） 6/7 ② 暴力団排除教育（2年） 6/8
③ 生徒総会 6/25 ④ 学力診断テスト（全学年） 6/30